

宿泊事業者部会での意見交換概要

【大崎圏域】圏域観光に対する御意見

- 人材育成や誘客のための人手や費用などの環境整備への支援に加え、特に春・夏の閑散期対策や冬のコンテンツ磨き上げ、景観整備といった具体的な魅力向上に、限りある予算を戦略的・集中的に活用していく必要がある。
- 周遊促進のためには、インフォメーション機能の充実による情報発信とあわせて、二次交通の利便性向上が重要である。公共交通のダイヤを観光客が利用しやすいよう働きかけることや、レンタサイクルの拡充、ラストワンマイルを補う多様な交通手段の導入が必要である。
- 地域の実情に応じて、国内客とインバウンドのバランスに考慮した集客施策を検討していく必要がある。
- その他としては、「質の高いガイドの育成などおもてなしの質を高めること」、「観光施策が地域住民の生活にも配慮された持続可能な観光地づくりを進めていく視点が重要である」など。

（１）戦略的な観光地域づくり

【第１回部会での主な意見】

〈観光コンテンツ磨き上げ等に関する意見〉

- 花畑の整備など誘客を目的とした環境整備活動を継続するための資金に対する支援や、アクティビティ事業における利用者の安全確保に関する講習受講といった人材育成に対するスタートアップ支援があれば良い。
- 鳴子温泉の高付加価値化と持続可能な観光地づくりを目的とした組織の運営などに宿泊税が利用できると良い。
- 健康志向の長期滞在や湯治文化とも共存できるので、潟沼までの遊歩道の整備や鳴子峡の景観整備を検討してもらいたい。

【第２回部会での主な意見：※は、主に「大崎圏域での施策活用イメージ」に関する意見】

〈閑散期対策とコンテンツ磨き上げに関する意見〉

- ※春と6～8月ぐらいが暇な時期になっており、平均的に底上げを図る必要があると思う。
- ※1月、2月は訪問客が少ないため、冬のコンテンツの磨き上げも何か考えた方が良い。稲刈りの終わった広大な田んぼを活用したり、星空観測のようなナイトコンテンツも作れるのではないかな。

〈既存観光資源の魅力向上に関する意見〉

- ※川渡温泉の桜並木は、橋に色をつけたり、街灯をガス灯のようなおしゃれなものに変えたりするだけで景観がだいぶ良くなり、観光客誘致につながるスポットをさらに整備できると考える。
- ※紅葉も鳴子峡だけではなく、鬼首の紅葉やダムの上の紅葉など、鳴子にはスポットがたくさんある。

〈施策全般に関する意見〉

- 宿泊税活用の施策案は、かなり踏み込んだ内容で、宿泊税という税金を活用するには大変大きな展開になると思う。
- ※県全体のこと大崎圏域のことが、非常にまとまって作られている。
- ※宿泊税予算は潤沢ではないと想定しているので、尖らせたものに集中的に使い、無理に使い切らなくても良いと考える。
- 観光コンテンツを県全体でやると全体に目が行き届きにくい場合があり圏域や地元との意見交換をしっかりとってもらいたい。

〈その他〉

- 違法民泊についても宿泊税の予算を使い、取り締まる方向へ持っていけるようお願いしたい。

(2) 周遊性向上のための二次交通対策

【第1回部会での主な意見】

〈二次交通対策や鉄道に関する意見〉

- 川渡から中山平や鬼首までを周遊する交通手段、宿泊客が街歩きをするきっかけとなる施策があれば、宿泊施設の外を回る客が増え、賑わいにもつながる。
- 仙台空港などでのインフォメーション機能強化、インバウンド客を対象とした、周遊モデルコース造成やガイドブックの作成が考えられる。
- 交通機関の週末の運行を支援する取組があると良い。
- インバウンド推進のためにも、県には陸羽東線の復旧を要望してもらいたい。

【第2回部会での主な意見：※は、主に「大崎圏域での施策活用イメージ」に関する意見】

〈二次交通全般に関する意見〉

- 旅の形態が変化する中で、自家用車やレンタカー以外の選択肢を作らないと個人旅行客は誘致できないため、二次交通の優先順位は高いと考える。
- 二次交通は、観光客だけでなく、普段の生活でJRやバスを使う地元住民の声も吸い上げ、一緒に考えられれば良い。

〈地域の公共交通（鉄道・バス）の課題に関する意見〉

- JR陸羽東線は、観光したい時間帯やチェックアウト後に滞在したい時間帯に電車の運行間隔が2時間も空いており、周遊の妨げになっている。二次交通として、陸羽東線の合間に代替交通手段があると地域内周遊ができるのではないかと。
- ※観光客や地元にも利用しやすいように、JRのダイヤを工夫してほしい。現状の午前8時台の列車は早すぎるため、午前9時台や10時台の列車を増やしてもらえよう働きかけて欲しい。
- ※鬼首地区はバスの本数が非常に少なく、バスで来られても周遊が困難なため、レンタカーや車でしかアクセスできないのが現状である。鬼首ではレンタカーがもう少しあれば良い。また、鳴子全体を周遊できるバスが少しでもあれば良い。

〈新たな交通手段・既存手段の強化に関する意見〉

- 最寄駅から宿泊施設までのラストワンマイルを解決するため「トゥクトゥク」のような楽しい乗り物に補助する考えもある。
- ※需要が高く非常に喜ばれているレンタサイクルは、台数を増やしてもらえれば良い。一方で、乗り捨ての課題や維持管理の手間が課題となっている。
- ※二次交通対策として移動手段を強化する上で、レンタサイクルの強化はすごく優先度が高い。
- ライドシェアは、陸羽東線不通時のような事態を補強できる。
- ※紅葉後、11月下旬からスキー場開きまでの観光の空白期間に集客できるよう、潟沼へアクセスする道路の冬季閉鎖期間を短縮してもらえるとありがたい。

(3) 快適な旅行環境のための受入環境整備

【第1回部会での主な意見】

〈観光ガイドの育成・支援に関する意見〉

- 圏域内を広く案内できるエコツーリズム等の専門ガイドを養成し、必要に応じて活用できる体制を整えることが考えられる。
- 〈インバウンド推進と地域への配慮に関する意見〉
- インバウンド推進に当たり、地域住民の生活・環境の保全や二次交通対策に関する取組等、地域に還元される施策を講じて欲しい。

【第2回部会での主な意見】

〈観光ガイドの育成・活用に関する意見〉

- 観光ガイドの育成について、スタートアップ時の研修などに予算をかけることで、ガイド自身の付加価値が高まり、プロとして活動していけるようになる。その一方で、ボランティア的に安価で活動しているガイドもいるため、こうしたプロのガイドとの明確な差別化を図っていくことが必要になってくる。
- 差別化に関連して、そのためにも「専門的な研修を受け、安全に質の高い案内ができるプロのガイドがいる」ということを、旅行者や旅行会社に対して積極的にPRしていくことも必要ではないか。これにより、ガイドの価値が正當に評価され、質の高いサービスが選択される環境づくりにもつながる。

(4) 効果的なプロモーションの展開

【第1回部会での主な意見】

〈地域の実情に応じた集客戦略に関する意見〉

- 鳴子温泉においてインバウンドが少ないことを好意的に捉える宿泊客もあり、パンデミックが再び起きたときなども考えると、地域の実情に応じた集客を検討すべきではないか。
- 大崎圏域のインバウンドはまだ伸びしろがあるものの、ピンポイントで有効となる取組をする場合でも、個人では難しい場合には県や圏域単位で取り組む必要もある。
- 〈ターゲット層のニーズ把握とデータ収集に関する意見〉
- ターゲット層の真のニーズ把握のため施策の議論に女性を交えたり、年代や性別等のきめ細かいデータをもっと収集できるよう、宿泊客以外にも大崎地域や県全体へのアンケート調査を行うなど、多様な意見を取り入れることも必要ではないか。

【第2回部会での主な意見】

※直接、関連する意見はなし。